

総合教育会議（第3回）会議録

1 開会年月日	平成28年12月15日（木） 午後3時
2 場 所	笠岡市役所 市長室
3 出席委員等の氏名	笠岡市：市長 小林嘉文 教育委員会：教育長 浅野文生 教育委員 廣井滋季, 谷 喜一朗, 三谷信恵, 石井啓弐
4 欠席委員等の氏名	なし
5 会議に出席した者の職・氏名	教育部長 福尾雅俊, 学校教育課長 原田博道, 教育総務課長補佐 前川英之
6 議事案件及び会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 小林市長 浅野教育長</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 平成29年度笠岡市一般会計教育関係予算について 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、新年度予算の編成に伴い教育委員会の意見を聞いた。 まず、平成29年度予算要求の主な事業について教育長が説明し、その後、意見交換する形で進められた。 <平成29年度予算要求の主な事業></p> <p>【総合戦略事業】</p> <p>① ICT活用によるわかる授業実施のための実物投影機整備事業 ② ICT機器整備事業（プロジェクター） ③ 小・中学校普通教室への教育用テレビ整備事業 ④ 授業改善・学力向上のためのデジタル教材等整備事業 ⑤ 小・中学校コンピュータ教室等整備事業（リース） ⑥ ICT支援員配置事業 ⑦ 外国語指導助手配置事業 ⑧ 小学校理科観察実験アシスタント配置事業 ⑨ 教育活動支援事業 ⑩ 教育活動の質的向上のための校務支援システム整備事業 ⑪ 生徒指導・進路指導総合推進事業（パソコン整備） ⑫ 学校連携のための「情報共有ツール」整備事業 ⑬ 「CMで伝える地域自慢コンテスト」開催事業 ⑭ 学校支援地域本部事業 ⑮ 学校施設空調設備設置事業 ⑯ 学校教育施設のトイレ洋式化整備事業 ⑰ 新学校給食センター建設事業</p> <p>【市長公約（指示）事業】</p> <p>① 幼稚園保育料多子減免事業 ② 幼稚園一時預かり保育事業 ③ 中学校学力向上に向けた検定チャレンジ事業 ④ 算数の学力向上を目指した非常勤講師配置事業 ⑤ 放課後学習サポート事業 ⑥ かさおかホリデーチャレンジ学習支援事業 ⑦ かさおかサマーチャレンジ学習支援事業</p>

- ⑧英語教育推進モデル事業
- ⑨いじめ・不登校対策総合推進事業
- ⑩小学校における不登校対策実践研究事業
- ⑪島しょ部学校給食施設空調設備設置事業
- ⑫図書館サービス拡充事業
- ⑬図書館機能充実事業
- ⑭スポーツ教室・プロスポーツ誘致等拡充事業
- ⑮多目的運動場整備事業

(意見交換)

意見交換の主なものは次のとおり。

- 市長：ICTの整備事業に関して島ではネットが繋がりにくい。どういう対策を取るのか。
事務局：学校だけではなくて島しょ部全体の環境整備が必要。教育委員会だけで検討するのではなく市の情報政策部門が中心となって検討するべき案件。
- 市長：クラスによっては落ち着きがない学校もある。深刻な状態になる前に、臨機応変に直ぐ加配できる体制はできているか。直ぐ対応できるように市の負担で加配予備員を置いてはどうか。
事務局：教育活動支援事業、それから市の非常勤講師の配置を含めながら実施する。
- 市長：笠岡独自の教育を打ち出したい。笠岡市内の学校に来たらこれだけはやるという事を作るべきだと思う。
事務局：北木島の宿泊研修施設を利用した体験活動が考えられる。独自の教育になり得る。
- 委員：外国語指導助手（ALT）の配置事業の拡充をお願いしたい。平成28年度から2名増えて9名になったが、更に2名程度は追加で配置していただきたい。
- 委員：CMで伝える地域自慢コンテストは、子どもたちが自分たちの住んでいる地域の良さを発見して、それを宣伝することで子どもたち自身も笠岡の良さが分かる事業なので継続していただきたい。それから、空調設備も洋式トイレも順次整備されているが、早急に整備していただきたい。
市長：順次整備する。トイレは取りあえず各棟のフロア毎で1つは洋式化にするやり方で整備を進める。
- 委員：放課後学習サポート事業、ホリデーチャレンジ及びサマーチャレンジをお願いしたい。学習の底上げを図るこのような事業は、是非とも継続していただきたい。
- 委員：英検とか漢検の受検料を負担していただけるのはありがたい。これを機会に勉強が好きになったり、受けたことがない子がそれに向かって勉強することは良いことなので是非ともお願いしたい。
市長：背景には自分の得意分野を1つでも良いから作って欲しいという思いがある。自己表現できるものを見つけて欲しいと思う。それが上へと引っ張り上げる要素だと思う。

(2) 小・中一貫教育について

まず、前回までの協議結果を全員で確認した。その後、小・中一貫校教育の新たな素案を事務局が説明し、それに対して意見交換する形で進められた。

<幼小中一貫教育の構想（素案）>

- ①就学前教育3年間と義務教育9年間を見通した教育を推進する。12年間の子ども像を、すべての教員が共有し、それぞれの教員が連携して発達段階に応じた教育をしていく。
- ②幼稚園、小学校、中学校を滑らかな接続により、落ち着いた学習環境づくりを進め、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携をさらに強化する体制を整える。
- ③地域の方とのふれあいや地域に出かけての教育活動を実践し、地元へ愛着を持つ教育を進めるために、幼稚園と小学校を同一施設にし、地域ルームの設置や体制づくりを行う。このことにより、今まで行ってきたそれぞれの地域との連携をさらに行いやすくする。また、地域の方も幼稚園や小学校ともに長期にわたり関わっていただくことにより、地域とともに進める学校づくりが推進できる。
- ④義務教育9年間のうち小学校6年間、中学校3年間の6・3制は維持しつつ、指導内容の重点化と指導体制の工夫により9年間の3区分(前期4・中期3・後期2)ととらえた取組を行う。中期からは中学校と施設を一体化し、教科担任制の導入など学習環境づくりや適正な規模の集団による環境を整え、望ましい人間関係づくりを行う。構想案の「敬業学園」(仮称)は■■■■を母体とし、学区の小5から中3までが通い、その下に幼稚園児を加えた3歳児から小4までが通う現小学校の■■■■・■■■■の各小学校舎で構成する。

(意見交換)

意見交換の主なものはお次のとおり。

市長：この構想案は法的に問題がないのか。

教育長：文部科学省から特例として許可を受ける必要がある。

委員：今回の素案は西中学校区を分割しなくて済むので、同じ中学校区の中で公平性が保たれる。私は今回の素案には賛成。

委員：現在の校舎を活用する案なので1つの考え方としては良い案だと思う。しかし、この案は[]校区の[]、[]、[]であれば可能だが、小学校区の中に保育所しかない学区や同じ小学校区の中に幼稚園も私立の保育園もある所も存在するので、全市的に広げるとなると課題が多い。文科省と厚労省の違いがあり、まとめることは難しいと思う。それから、[]や[]などの大規模校の学区から小規模校の学区まで、同じように導入できるのか疑問で課題が多い。

委員：関係機関への協議もこれからなので課題も多いと思う。私が幼稚園児や小学校5・6年生の親だったら、どのような気持ちになるのか、その辺りが未だ整理できない。良いところも沢山あるし、面倒なこともある気がする。市長の意見を反映して小・中一貫校を考えると、こういう案もあるのかなという段階。悪い案ではないが、現段階では本当に賛成しても良いのか結論が出ない。

委員：これから詰めることは色々と思うが、方向的にはこれで良いと思う。

(3) その他

東京オリンピックの練習会場等として笠岡にある施設・設備を活用してもらえるよう、最大限の努力を行いたいと、市長から教育委員に対して説明があった。

4 会議総括

(1) 平成29年度の教育関係予算について、外国語指導助手の増員、学習の底上げを図る事業、空調やトイレ洋式化などの環境整備のほか、英検などの受検料負担についても意見交換を行った。

(2) 幼小中一貫教育の構想(素案)の方向性について、一部に保留意見もあるが概ねの理解を得た。

7 会議の詳細

別紙議事録のとおり

8 閉会年月日

平成28年12月15日(木) 午後4時50分

上記会議のてんまつを記録し、関係図書を添付して、その相違のないことを証するため、署名押印します。

平成29年 1月26日

笠岡市長 小林嘉文

教育長 浅野文生

教育委員 谷喜一郎

教育委員 三谷信恵

教育委員 石井啓次

教育委員 廣井慈季